

ジェンダー平等の実現に向けて 平和・世界遺産部会長 内田一士

広島ユネスコ協会理事の柴田幸子さんは、当部会のユネスコ活動に部会長や部会員として、長年にわたり携わりご活躍されました。以前、柴田さんには日本からの代表の一人として世界女性会議に参加されたお話をお聴きしたこともあります。ここで改めて感謝申し上げます。

3月8日は、婦人参政権が認められたことを記念して設けられた国際女性デーで、ジェンダー平等について考え、アクションする記念日となっています。そして、2021年のテーマは「リーダーシップを発揮する女性たち、コロナ禍の世界で平等な未来を実現する」となっているということでした。

SDGs2030の17の開発目標の中に、⑤「ジェンダー平等を実現しよう」があり、日本は調査対象145カ国中121位であるそうです。この理由は、日本の女性が企業・団体の役員や国会議員・地方議員に占める割合等が、他の国々と比較して大きく遅れているためだそうです。

最近、日本のオリンピック組織委員会の理事の女性の割合が4割を超えました。良い傾向にあると思います。日本の家庭における子育てや介護などにおいても、もっと多くの男性が担っていく必要があると思います。

SDGs2030は、“誰一人として取り残さない”として作られました。

・参考文献「SDGsの考え方と取り組みがしっかりわかる教科書」ハウンド著

(株)技術評論社